

<p>学校教育目標</p>	<p>「自己を高めよう」をめざし、 知、徳、体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる ＜めざす生徒像＞ 「～人のために～ 一生懸命やるとってかっこいいと思える生徒の育成」 真剣に学び合う生徒、けじめのある行動をする生徒、自ら心と体を鍛える生徒</p>	<p>経営理念 使命・経営展望</p>	<p>【使 命】 自立した大人になるための基礎づくり 【経営展望】 南中文化の向上 －学校に協力的な南中学区の地域文化を基盤に、生徒の将来の自立に向け価値のある生徒文化・教師文化の質の向上を目指す。－</p>
---------------	---	------------------------------	--

評価計画 (中期経営目標を設定して5年目)【新規☆】

<p>経営展望 (中期経営目標) 実現に向けての位置付け</p>	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業での「授業だより」の執筆者を中堅教員が担うことや、全教員が参加する体制で道徳の「授業づくり」を行ったことで、中堅教員に授業研究における推進者としての自覚と責任が生まれた。本校で力をつけた教員が、新たに市の教科等指導員となり、広い視野で教科指導のあり方を考える機会が生まれている。 中堅教員の層が厚くなったことで、教員同士が互いに学び合う南中の教師文化の中で新任、若手教員を育てていく余裕が生まれてきている。市教委嘱託研究指定の1年目にあたる本年度は、教員同士が学び合いながら研究を推進していくことができる組織・体制を構築する1年とする。
	<p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事、学年行事において、学級担任がリーダーを育て、支えることでできおり、生徒の前向きな姿が見られる。委員会や係、当番活動など、日常の学校生活においても学級のすべての生徒が帰属意識、有用感を感じられる学級集団づくりを進めていく。
	<p>c</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事や生徒会活動を通じて集団づくりに取り組んできたことにより、「生徒自治」は成熟期を迎えつつあり、本質的な部分が明確になってきた。これまでの取組を振り返り、生徒自治のさらなる向上を目指して、内容を精選し質を高めていく。 「生徒自治」を目指した教育活動を推進してきたことにより、生徒会行事や委員会活動において生徒会役員や委員会の生徒が中心となって上級生が下級生に生徒文化を伝えていくことができるようになってきた。指導する教員が「ファシリテーター」としての役割を自覚し、「集団の中で生徒自身が課題を発見し、解決する力」を伸ばしていく。
	<p>d</p> <ul style="list-style-type: none"> 南部まちづくり協議会を中心とした地域からの「健全育成・リーダー養成」に関する支援・協力の輪が、高浜市ローターリークラブ・高取まちづくり協議会へと広がり、協力が得られる地域基盤に厚みができてきた。教員、生徒の側から地域や関係団体に積極的にはたらきかけ、関わりを持つことを目指す。
	<p>☆</p> <ul style="list-style-type: none"> 通級指導の開始、ポルトガル語を話せるSSの配置など、特別な支援を要する生徒に対する指導・支援体制が整いつつある。効果を証しながらよりよい指導・支援のあり方を模索していく1年とする。 <p>☆</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝部活がなくなったことにより若干の余裕が生まれたものの、勤務時間外労働の月80時間超、100時間超が無くならない現状がある。勤務時間管理については時間外勤務の数値目標が示された。校内に事務長を長とする「業務改善推進委員会」を立ち上げ、勤務における無駄を減らす具体的な方策を示し、取組を進めていく。

学校経営の軸に対する考え方

<p>a 教師の授業力 (教師→教師)</p>	<p>公開授業と授業だよりの執筆、全体授業と協議会、論文の執筆と読み合わせ会を通して、教科や学年の枠を超えて教職員同士が「授業づくり」「単元づくり」について、学び合える教師集団を目指す場を大切にする。ベテラン・中堅教師の知識と技が、若手教師に受け継がれていく南中の教師文化を創造・継承しつつ、新たな役割の中でそれぞれの教員が力を発揮できるようにする。</p>
<p>b 学級経営力 (教師→生徒)</p>	<p>どんなに優れた授業実践をしても、学習集団が未熟であれば、「深い学び」となることは期待できない。また生徒に健全な社会性を育むためにも、生徒たちの集団づくり・仲間づくりに対して的確な指導支援ができるよう、担任がファシリテーターとしての役割を意識しながらリーダーシップを発揮し「学級経営力」を向上させたい。上級生ほど、自分たちの手で学級が運営できるような学級文化を目指す。</p>
<p>c 集団の中で、生徒自身が課題を発見し解決する力 (生徒→生徒)</p>	<p>「課題を発見し解決する力」が、将来を生きていくために最も重要な力であると考えている。これまでリーダー育成や「生徒自治」について重点的に取り組んできたことを生かし、生徒主体の生徒会活動や部活動が運営できるようにすることを目指している。生徒の手によって、3年生から1、2年生に受け継がれてきた南中生徒文化を内容面からも、質の面からも向上させていきたいと考えている。</p>
<p>d まちづくりへの協働・貢献 (地域⇄生徒)</p>	<p>中学生も地域の一員として地域づくりに貢献する中で、地域の方々と中学生が交流していけば、地域への愛着も増し、将来自分の住む地域について考えて行動できる大人になると考えている。高取・南部まちづくり協議会、高浜市文化協会等、地域の諸団体からの協力は、南中学校にとって貴重な財産である。ここ数年で、高取まちづくり協議会、高浜市ローターリークラブ、NPO 法人アスクネットと協力団体は広がってきている。さまざまな地域の支援者に本校が支えられていることを教職員、生徒共に自覚し、支援や活躍する場を提供していただいていた立場から、生徒からはたらきかけ、積極的に関わりを求める立場へと転換していきたい。</p>

本年度、特に重点的に取り組むことに対する考え方

<p>☆ 特別な支援を要する生徒への支援・指導</p>	<p>軽度の発達障がいを持つ生徒、日本語以外の母語を持つ生徒が増加しており、学校生活や学習における特別な支援・指導のニーズが高まっている。個々の生徒が抱える困り感を低減し、安心して学校生活を送れるように、通級教室、ポルトガル語が話せるSSの積極的な活用を図っていく。</p>
<p>☆ 勤務時間の縮減</p>	<p>長時間に及ぶ勤務時間外労働が常態化しており、人的措置がなされない中での勤務時間削減は限界がある。管理職から示されること以外にも業務の中に削減、縮減できるものがないかを、教職員自身の目で見直し、具体的な提言ができるようにする必要がある。</p>

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	成熟度による成果指標		30年度	☆取組指標 ○成果指標 (予算関係)	評価基準
a 授業力向上	◇生徒目線に立った「南中学習スタンダード」の質を高める。「南中学習スタンダード」を定着させ、「聞く力」を	<ul style="list-style-type: none"> 南中学習スタンダードを意識した授業実践に計画的に取り組み、「聞く力」に重点を置いて授業実践を振り返る。 主題研の4部会毎に「学び合い」の視点で主題に沿った単元を構想し、授業実践する。 授業参観者用シート、「授業だより、授業メモ」で南中のめざす授業を示し、相互参観・執筆を通じて授業力を高める。 目指す生徒像を教員と生徒が共有して授業に臨むことができるように、「手引き」を作成して浸透を図る。 	○自分の思いや考えを発信する (深い学び)	4段階	生徒がもちよった考えを基に、話し合いが成立し、生徒の思考に深まりができた。	○南中学習スタンダードの中 の「聞く」「話し合い」に 関するアンケートの「はい」 「概ね」の全体に占める割合	生徒教師のアンケート結果(はい、概ねの合計値) ① A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 59%未満
				3段階	多くの生徒が根拠を示しながらの話し合いに参加し、思考に広がりが出てきている。		
				2段階	一部の生徒の発言は活発だが、話し合いが広がりや深まりがない。		
				1段階	話し合うために必要な知識等が習得できていない。		
			○基礎学力の習得	4段階	基本的な知識や基礎的な技能を、仲間と関わりながら習得したり、互いに学び合いながらクラス全体で身に付けていこうとする。	○教師の授業参観シートA評価の割合(2.5点以上)	教師の相互評価 ③ A: A評価70%以上 B: A評価50%以上
				3段階	基本的な知識や基礎的な技能を、繰り返して欠いたり、声に出したりしながら自ら進んで身に付けようとする。		
				2段階	基本的な知識や基礎的な技能を、教師が主導しながら身に付けようとする。		
				1段階	学びに対する意欲が見られず、基本的な知識や基礎的な技能を身に付けようとする姿が見られない。		
					☆授業の「手引き」の発行数	A: 発行5回以上 ⑤ B: 発行4回以下	
					○中学校入学時(100)と比べた生徒の学力検査の割合 (NRT・知能: 公費691,500円、私費<理社>403,200円) ※検査費用1教科10円値上	NRT ⑥ A: 110%以上 B: 100%以上 C: 90%以上	
					○NRT教科別得点分布	・職員による分析結果 ⑦	

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	成熟度による成果指標		30年度	☆取組指標 ○成果指標 (予算関係)	評価基準		
b 学級経営力の向上	◇級訓を核とした学級経営を行い、一人一人の個性を生かしながら、帰属意識高い有用感を感じられる学級集団を形成する	<ul style="list-style-type: none"> 級訓を核とした学級の「仲間づくり」の様子と経過を、学級掲示に反映する。 応援合戦、合唱コンクールをはじめ、学校生活全般において級訓を意識した取組、振り返り、評価を行う。 不登校生徒の現状と指導方針を共有し、学校復帰、学級復帰に向けた支援をみなみ部会を中心に組織的に展開する。 	○仲間づくりを意識した学級経営	4段階	生徒リーダーを中心に、学級の全員が自主的に運営に参画することができる。	☆「仲間づくり」の様子、経過がわかる学級掲示がされている。	・学級掲示 ⑧ A: 全学級(20学級) B: 19学級以下		
				3段階	教師の支援のもと、室長、団長等の生徒リーダーが中心となって、話し合い活動ができる。				
				2段階	グループの中で、司会等の指示を出せば、自分の思いや考えが正直に話せる。				
				1段階	グループになっても、自分の思いや考えが言えない。				
			支特別な指導体制を確立する 生徒への	<ul style="list-style-type: none"> 通級指導のあり方を研究し、南中学校にふさわしい通級指導体制を確立する。 外国籍生徒の現状を把握し、市通訳、SSを活用しながら困り感にきめ細やかに対応する。 	困り感を低減する指導・支援	4段階	特別な支援を要する生徒が、通級指導や通訳、SSによる指導・支援により困り感を低減できる。	☆学級担任、教科担任から支援・指導について申し出がある。	指導・支援の要請 該当生徒数 ⑫ A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 50%以下
						3段階	特別な支援を要する生徒が、困り感の解決の場として通級教室、市通訳、SSを認識している。		
						2段階	特別な支援を要する生徒の居場所が確保できている。		
						1段階	市通訳やSSが特別な支援を要する生徒の困り感に対応できない。		
					○該当生徒の満足度	アンケート(満足、概ね満足)の割合と同じ ⑬ ※生徒、担当者への聞き取り ⑭			

中期 経営目標	短期 経営目標	目標達成のための方策	成熟度による成果指標			30 年度	☆取組指標 ○成果指標 (予算関係)	評価基準				
c 集団の中で、生徒自身が課題を発見し解決する力	◇「生徒自治」の精神を継承し、リーダーを中心に生徒主体で計画・運営・評価しながら活動できる機会と場を保障する	<ul style="list-style-type: none"> 外部団体、小学校と連携したリーダー研修会を運営し、部長会へ繋げる。 生徒議会・生徒総会を実施させ、室長会や委員会の生徒と生徒会役員の連携を図る取組を取り入れる。 「ファシリテーション」の技能を生かし、生徒の自治活動やグループ活動の支援を生かす。 学年目標の達成に向けて室長会を運営し、決定した諸取組を学級へと広げていく。 	○主 プロ 動的 に	4段階	生徒会スローガンを軸に、生徒会役員や委員会の生徒が、互いに連携し合っ て常時活動や生徒会行事を企画運営し 学校全体にはたらきかけている。	<ul style="list-style-type: none"> ○リーダー研修会参加生徒に対するアンケート記述 ○参加小学生のアンケート ○研修会後の参加生徒の活動追跡調査、教師の見取り (中学生38人、職員10人、小学生32人、職員5人) 旅費：公費255,000円(宿泊69,600円、交通費(バス)97,200円、 県費旅費16,950円、私費92,640円<食事等>) ○生徒会、委員会活動に対するアンケート・担当教師による振り返り ○「プロジェクト」に関わるアンケート結果の「はい」「概ね」の全体に占める割合 ○リーダーに関するアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> A：活動のねらいを達成できている記述の割合80%以上 各種アンケート結果 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 ・参加者の記述より ※上のアンケート結果と同じ ※上のアンケート結果と同じ ・記述内容より ※上のアンケート結果と同じ 室長会の議題 A：学年の問題について生徒からの提案で話し合った B：学年の問題について教師からの提案で話し合った C：学年の問題について話し合わなかった 					
			エ動 クク ト活 動	3段階	生徒会スローガンを軸に、生徒会役員や委員会の生徒が、各領域でアイデアを出し合っ て常時活動や生徒会活動を企画することができる。							
			○よ りよ い学 年を 目指 す室 長会	2段階	生徒会役員や委員会の生徒が、生徒会活動や行事の意義を見だし、活動を考えることができる。							
				1段階	生徒会役員や委員会の生徒が、生徒会活動や行事の意義を考えていない。							
				4段階	学年のリーダーが自分たちの学年の問題を見だし、改善に向けて具体的な方策を立て、主体的に学年全体に働きかけることができる。							
			3段階	学年の問題について解決のための方策を考え、実行に移すことができる。								
			2段階	学年の問題の解決のために教師が示した解決策を実行することができる。								
			1段階	現状に満足し、学年の問題が認識できていない。								
			d まちづくりへの協働・貢献	◇自己と協働してまちづくりと地域に貢献すること、生徒の地域と協働を高め、学校と地域の連携強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会、生徒会が、外路ボランティア活動、防災訓練を計画運営・参画する。 資源回収収益金の使い道を決めるとき、地域への貢献方法を考えさせる取組を試みる。 スマホ対策、リーダー研修会において地域と協働する機会を継続する。 ホームページ、ブログ等で学校の方針、活動のねらいと生徒の様子を積極的に情報発信する。 			を○ 通ボ シラ たん 地テ 域イ 貢ア 献活 動	4段階	進んで参加し、心のこもった活動をする。参加する大人と一緒に活動できる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動の参加生徒数 ○ボランティア活動・ホームページ等に関するアンケート結果 ☆スマホ対策事業、リーダー研修会に対する参加者の振り返り、地域関係者の感想(南部・高取まち協・高浜市ロータリー310,000円) ○学校へののべ協力者数 ○ブログ閲覧者数 	<ul style="list-style-type: none"> A：全校の60%以上 B：全校の50%以上 C：全校の49%未満 アンケート結果 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 ・記述内容より A：500人以上 B：400人以上 C：300人以上 A：1日平均200以上 B：1日平均100以上 C：1日平均100未満
								3段階	進んで参加し、まじめに活動をする。			
								2段階	参加者数は多いが、まじめに活動できないものもある。			
								1段階	参加者数が少なく、嫌々やらされている。			
○め よざ りす よ情 い報 南発 中 信を	4段階	ホームページを見て協力の申し出がある。										
3段階	各種たよりやホームページに目を通す保護者や地域の方が多い。											
2段階	各種たよりやホームページの更新等、情報発信を積極的に行う。											
1段階	各種たよりが保護者の手に渡らずホームページもほとんど更新されない。											
勤 務時 間縮 減の 推進	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善委員会を立ち上げ、職員自らが業務を見直し、削減、縮減の提案をする。 地域団体の代表者やPTA役員等を通じて地域、保護者に学校の実情を発信し、勤務時間縮減の取組について理解の促進を図るとともに、協働して取組を推進する。 	業務 の削 減・ 縮減				4段階	業務改善委員会の提案により業務が改善され る。業務改善委員会の提案により業務が改善され る。業務改善委員会の提案により業務が改善され る。業務改善委員会の提案により業務が改善され る。	<ul style="list-style-type: none"> ☆業務改善委員会実施回数 ○業務改善の提案数 ○在校時間 	<ul style="list-style-type: none"> A：3回以上 B：2回 C：1回 D：0回 A：20以上 B：10以上 C：5以上 D：4以下 昨年比 平均 A：10%以上減少 B：10%未満減少 			
						3段階	業務改善委員会の提案により業務が改善され る。業務改善委員会の提案により業務が改善され る。業務改善委員会の提案により業務が改善され る。業務改善委員会の提案により業務が改善され る。					
						2段階	業務改善委員会の提案により業務改善されたが 在校時間が増加する。					
						1段階	業務改善委員会の提案がなく業務改善されず 在校時間が増加する。					